

動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校

第2学年理科資料

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です。もうすぐ楽しみにしている宿泊学習ですね。自主研修の準備は進んでいますか。円山動物園にもたくさんの学生が、職場体験に来ます。しかし、その実習が終わったあと、動物園から学校へのメッセージにこんなものがありました。「指示を守ってもらう、言葉遣い、服装などには問題ありません。けれども、反応がとても乏しく消極的、感想なども型どおりといった感じで、当園としてはやる気が失せてしまいます。他の高校生、中学生にも総じて言えることですが、本当に動物園でのインターンシップを希望しているのか、はなはだ疑問でした。」皆さんの意識は、そうではないことを期待しています。さて、今回はクジャクの羽根についてです。



見事に開いたクジャクのはね、めったに見ることができませんね。皆さんに中にもこの姿が見たくて、クジャクを突ついたり、叫んだり、そしてじっと待った経験のある人はいませんか。科学的根拠はないようですが、雨の降る前によく見られるそうです。こども動物園のクジャクは、朝と夕方に開いていることが多いようです。(この日は快晴の夕方で、翌日も快晴でした。)さて、この行動は、「雄の求愛行動」ということですので雄にしか見られません。あたりのクジャクを見回すと立派な羽根を持つ雄が少ないようです。



ところで左の写真の3羽、雌雄どちらでしょうか。正解は、雄が2羽、雌が1羽です。雄の羽根が立派に成長するには数年間かかります。写真上段のは1歳、中段は3歳の個体です。3年もかかってまだこれだけです。ちなみに、飼育記録はおおよそ19年です。クジャクも人も立派に成長するためには年月がかかるものですね。さて、これはスcoopです。右の写真のようにビーバーのえさを泥棒しようと侵入してしまったのを捕獲しに向かいました。クジャクも当然ですが逃げますよね。なんと池にダイブ、でもしっかり浮いて泳いでいました。感動していると、「俺も初めて見た。」と園のベテランキーパー「三原」さんでさえ初めて見たというクジャクの泳ぐ姿です。



インドクジャク(キジ目キジ科)



子ども動物園情報 みんなでレポートしよう。

この週末(20.21)から、ヒツジの毛刈りが始まります。(来週末も予定)刈った羊毛は、フェルトを作る材料として来園者にプレゼントの予定です。天候と動物の体調を考えての作業ですので日時は変更になるかもしれませんが、運が良ければウール100%をゲットできるかもしれません。

6月からモルモットとのふれあい教室がスタートします。小さくて「かわいい」というだけでなく、行動の様子もチェックできるチャンスです。

昨晚、この夏封切りとなる「ホワイトブラネット」という映画を見ました。もちろん、園長ほか動物園の人たちといっしょに仕事としてです。北極圏で生きる動物の姿が生々しく伝えられている映画です。また、地球環境についてもじっくりと考えさせられました。みなさんにも是非見てほしい映画の一つとなりましたが、中学生には少し難しいかもしれません。興味のある人は見に行ってみてください。